



# 小樽商科大学 広報誌 Hermes courrier

ヘルメス・クーリエ

2008. July

## No. 20

特集：新学長インタビュー  
子供の頃から商大生は  
特別な存在でした .....1



多喜二ドキュメンタリー視聴会と  
ライブ・トーク・セッション .....3

新しい商大認証グッズが誕生しました  
百周年記念連載コラム .....4

小樽商科大学・小樽市との間で連携協力協定を締結  
学長と記者との懇談会を開催 .....5

シリーズ先生紹介 第16回  
菅原 照夫 教授 .....6

INFORMATION .....7

# 子供の頃から商大生は特別な存在でした

この4月から新学長となられた山本先生は、地元の小樽育ちで新制小樽商大卒の初めての学長です。今回は難しい話は別にして、商大生の今昔をざっくばらんに語っていただきました。

## 少年時代の小樽

学長は小樽っ子ですね。

はい、もともとは新潟の生まれですが、3歳くらいの時から小樽です。父親は南小樽駅近くの繊維問屋で行商のような仕事をしていました。

少年時代の思い出は？

どこの小路にも子どもがあふれていましたね。当時の遊び場は未舗装の道路で、みんなで野球や缶蹴りなんかしたものです。商店街もにぎやかで、あちこちにあった市場で買い物をするのが、お母さん方の日課でした。社交場みたいなものです。それから映画館の数も多く、うちの近所にも若松館というのがあって、時々チャンバラを見に行きました。

港や運河は？

商船、漁船、貨物船、とにかく港は船でいっぱいでした。運河も幅が今の倍で、威勢のいい小樽弁が飛び交っていましたね。人口20万の時代です。小樽の町全体に活気があった。でも、港も運河も、子供なんかが行くような場所ではなかった。

スポーツはお得意でしたか？ 小樽といえば夏は海水浴、冬は裏山スキーですが。

もちろん中学校の授業なんかでそれなりにやったものですが、私はむしろインドア派で、ラジオやモーターなんかをいじくっている方が好きでした。ラジオ作りは今もやっています。自作の受信機でいかに遠くの電波をキャッチするか。この間は、福岡放送が入りましたよ。

次は沖縄、台湾、フィリピンですか。

ええ、でも最近はハンダを手にする暇もなくて……

## 憧れの商大生

高校は名門の小樽潮陵ですね。受験生の目には商大はどう映っていたのですか？

子供の頃から商大生は特別な存在でした。学生服をまっつて歩くだけで、周囲の大人が「おっ」といった反応を見せるのです。そりゃあ、全国から集まった精鋭たちですからね。大阪や浜松、遠くは沖縄からも小樽に来ていた。商大生は私の憧れでした。でも、本当のことを言うと、実は私は理科系の志望だったのですよ。

それがどうして文系の商大に？

当時は1期校と2期校とがあって、北大を落ちて2期校の小樽商大へ。でも、商大に合格した時は、ものすごく嬉しかったですよ。今思うと、もし北大の理工系に行っていたら、札幌の寮に入って4年間勉強して、それで普通のサラリーマンだったでしょうね。

## 商大時代

ご自身、どのような「商大生」だったのでしょうか。勉学一筋だったのですか？

とんでもない。バドミントン部に所属し、ダブルスを組んで頑張りましたよ。でも、親しかったのはむしろラグビー部の連中で、彼らとは馬鹿をやったものでした。当時は飲み屋でツケがきいた時代でした。商大生というだけで、町では大事にされていたのです。で、我々はというと、さんざん小樽の町に甘えさせてもらっておいて、でもやっぱり飲み足りなくて、寮に戻って朝までですよ。けっこう蛮カラでした。

勉学の方は？

好きな科目は簿記でしたが、英語の授業も忘れられません。1年の時、初めてネイティブの先生に教わりまして、最初は「eraser（消しゴム）」も聞き取れなかった。受験英語の弊害です。もともと好きでもなかったですし。でも、継続は力なりで、4年になって、マレーシアからの留学生と初めて英語で話した時には、「おお、通じる！」と感激したものでした。

ご専門の会計学は？

私は管理科学科、今でいう社会情報学科に所属し、機械化会計を研究していた藤田先生に師事していました。ところが、途中で先生は他大学に転出なさり、残された私は、自主ゼミという形で勉強を続けることになりました。でも、何か満たされなくてねえ。大学院への進学を考えるようになったのも、もう少しきちんと専門的に会計学の勉強がしたいと思ったからでした。

当時は修士課程ができたばかりですよ。

はい、私は2期生で、1学年上の先輩が一人いました。

院生二人ですか？ ちょっと寂しいですね。

定員は20名でしたが、何人受けに来ても落とすのですよ。一人、多くて二人と、10年くらいはそんな人数じゃなかったかなあ。当然、授業はマンツーマン。しかも、先生方も学生を研究者に育て上げようと本気ですから、猛烈なしごきをし

小樽商科大学長  
山本 眞樹夫



【プロフィール】  
昭和47年 3月 小樽商科大学商学部卒業  
昭和53年 4月 福島県立会津短期大学講師  
昭和56年 10月 同 助教授  
昭和57年 4月 小樽商科大学商学部助教授  
平成 2年 10月 同 教授  
平成 8年 7月 同 学生部長  
（～平成12年6月）  
平成14年 4月 同 副学長(学術担当)  
平成16年 4月 国立大学法人小樽商科大学  
理事(総務担当副学長)  
兼 大学院研究科長  
学位 / 博士(経済学)  
専攻 / 財務会計論



卒業証書を手に友人達と（左） お世話になったなじみの店で（右）



卒業式に旧校舎本館前で。

てくれるわけですよ。先生が読みたい論文を読ませられ、授業は毎回、発表、発表、発表。もちろん大いに鍛えられましたし、学部時代のフラストレーションも吹っ飛びました(笑)。

しかし、当時の商大には博士課程がなく、学長は一度小樽を離れました。

はい、東北大の院で3年間研究して、その後、会津若松の県立短大に就職しました。そこには4年間いました。白虎隊の会津もなかなか面白い土地柄でしたが、昭和57年、商大の教官として古巣の小樽に舞い戻ってくることになりました。やっぱり嬉しかったですね。昔しごいてもらった先生方に認めてもらえたのですから。

## 商大生の今、昔

こうして学長は「憧れ」の商大生を指導する立場となりました。商大の教員として、また、ご自身商大のOBとして、昔から今に伝わる商大気質は何とお考えですか？

学生がねじ曲がっていない。少しくらい羽目はずすことはあっても、素直に人の話を聞くことができ、道を曲げずに真っ直ぐに伸びようとする。商大生はみんな、いずれは品格のある大人として巣立っていく素地は十分で、これは昔も今も変わりない。

品格といえば、この頃は、国家だとか親だとか、やたらと品格が育られますが、商大の学則第一条には、昔から「品格のある人材の育成」が謳われています。

そうです。初代の渡辺校長が「諸君を少年紳士として扱う」と語って以来、歴代の校長・学長は同様の言葉で新生を祝い、学生に品格を求めてきました。品格とは自己責任であると考えます。誤るのも、それを正すのも自己責任。これだけ品格がもてはやされるのは、それだけ世の中に無責任がはびこっているということなのでしょう。商大の卒業生にはそうあって欲しくない。

先生も学長として、新生に品格を説いたわけですね。

ええ。でも、さすがに「少年紳士として」などとは言いませんでしたが(笑)。

学力面ではどうでしょう？ しばしば、昔の方が優秀だった、とも言われますが。

私はそうは思いません。我々の時代はいわゆる座学が中心で、目で本を読み、手でノートをとる能力が求められました。でも、これからは足と口でしょう。実際に自分の足でいるんな場所へ行って経験し、そこで考えたことを自分の言葉でプレゼンする。こちらの方が知識としても定着しますし、実践的です。書物だけではなく、動き回ることです。その意味では、行動的で物怖じしない現代っ子の方が、議論はするけど内弁慶だった私達よりも、はるかに逞しい気がします。特に女子学生。みんな積極的に元気です。今年初めて参加した「よさこいソーラン祭」のチームをはじめ、学内、学外のいろんな所で女子の活躍が目立ちます。

## 楽器ができる商大生

学長としては、どんな卒業生が理想ですか？  
楽器ができる商大生ですかね。

えっ、楽器ですか！

そうです。海外では仕事ができるだけでは足りなくて、最後にリスペクトされるのは、例えば、ベートーベンを語れる、といった、その人の教養です。往々にして、日本のビジネスマンにはこれが欠けている。これは日本の教育にも責任がある。もし商大で音楽が必修科目で、卒業生の誰もが何かひとつは楽器ができるとしたら、それこそ「品格ある人材の育成」の理想形ではないでしょうか。

リベラル・アーツですか。

ええ。楽器というのは夢だとしても、大学教育を真剣に考えると、どうしても教養教育に行きつくことになります。つまり、芸術や体育、そして情操をも含む全人教育です。「語学、実学そして品格」が本校のモットーですが、単に外国語とそろばんができるだけではダメで、やはり広くて深い教養からしみ出る品格が問われるのです。私が学生部長時代に、教養教育の単位を引き上げたのもそのためで、学長になってからもその考えは変わりません。きちんとした全人教育をやり、規模は小さいけれど、確たる存在感を世に示し続けることが重要だと思います。

そのためには？

まずはよい研究でしょう。文系では研究が教育に直結しますからね。私自身は、例えば『サムエルソン経済学』のような、定番と言われる教科書を書くのが夢です。それからもうひとつ忘れてならないのは、学生を大切にすることです。本当にいい学生を育てて社会に送り出す。そして、卒業生とおして本学が評価される。結局、これしかないのです。私は学生と接していることが好きですし、教師という仕事が大好きです。

## インタビュー

### 尾形 弘人

(おがた・ひろと)

言語センター准教授  
(フランス語)





## 多喜二 ドキュメンタリー視聴会と ライブ・トーク・セッション

各種報道媒体で頻繁に取り上げられているように、現代の派遣や非正規社員などのいわゆる「ワーキング・プア（働く貧困層）」の厳しい労働環境に通じるものがあるとして、本学（旧小樽高商）出身のプロレタリア作家・小林多喜二の「蟹工船」（1929年、昭和4年）が、再び脚光を浴びています。そうしたなか、2008年5月31日（土）市民と本学の学生・教職員との交流の場である駅前プラザ「ゆめぼーと」にて、ドキュメンタリー「いのちの記憶・小林多喜二・二十九年の人生」（HBC北海道放送）の視聴会およびライブ・トーク・セッション「『蟹工船』ブームと青年」が開催されました。当日は地域住民の方々もたくさんお越し下さり、大変有意義なイベントとなりました。

このドキュメンタリーは、小樽商科大学創立100周年記念事業の一環として制作されたもので、構成を手がけたのは映像プロデューサー・演出家の守分寿男さん。守分さんは本学のOBであり、約5年の歳月をかけてこの番組を完成させました（番組プロデューサーはHBCの松田耕二さん）。番組制作と視聴会開催にあたっては、本学OBの佐野力さんが館長を務める白樺文学館からご協力をいただきました。なお、本番組については、8月14日14時5



分から再放送が、また、再編集版DVDが9月10日1枚3,000円で発売される予定です。

視聴会に続くライブ・トーク・セ



小林多喜二に関するドキュメンタリー視聴会（上）とライブ・トーク・セッション（下）



白樺文学館が企画した『30分で読める…大学生のためのマンガ蟹工船』

書店では「蟹工船」の特設コーナーも。（喜久屋書店 小樽店）

ッションでは、本学の荻野富士夫教授（歴史学）が司会進行を務め、市民と学生・教職員のあいだで様々な意見と感想が交換されました。荻野教授からは、最近の「蟹工船」ブームの現状、番組の企画から完成までのプロセス、そして「蟹工船」に関する本年度ゼミ生たちの意見について、紹介がありました。つぎに、寺井勝夫さん（小樽多喜二祭実行委員長）は、「蟹工船」エッセーコンテスト受賞者たちが多喜二祭に参加したことを紹介しながら、「没後75年、多喜二が生きていれば105歳になるこの2008年に、多喜二のことが若い人たちに素直に受けとめられているということを実感することができた」と語りました。また、本学の3年生でエッセーコンテストのノーマ・フィールド特別奨励賞を受賞した佐藤亜美さんは、現代の若者の立場から、「蟹工船」の内容と現代の状況との共通点と相違点を指摘しました。

一般市民の方々からは、多喜二や彼の家族について小樽で語り継がれている貴重なエピソードが提供されました。また、番組に流れた昔の映像についての解説もいただきました。その他に、大学出の銀行員として「上流」の生活が保証されていたはずの多喜二が、貧しい人びとのために生きたというのは現代において示唆的だというご意見、多喜二の作品が何カ国語にも翻訳されているという「国際性」が今後ますます重要になるだろうというご意見、また今回のドキュメンタリー番組は道内限定のローカル放送であったため、全国放送にまで発展することへの期待、最近の「蟹工船」ブームの背後にある社会状況をも織り込むかたちで本番組の“続編”が制作されるべきだというご要望なども出て、活発な議論がなされました。

「蟹工船」ブームの火付け役にもなった、白樺文学館と本学が提携して出版した「蟹工船」関連の最近の書物としては、以下のものをご参照下さい。

- ・『30分で読める…大学生のためのマンガ蟹工船』、東銀座出版社、2007年。
- ・『私たちはいかに「蟹工船」を読んだか 小林多喜二「蟹工船」エッセーコンテスト入賞作品集』、遊行社、2008年。

## 新しい商大認証グッズが誕生しました

商大認証グッズとして、これまでも日本酒「小樽緑丘」、酒饅頭「商大饅頭」、名刺入れ、キーケース等を企画販売しておりますが、商大グッズ専門委員会では、学生や教職員の意見を参考に、さらにユニークな商品の開発を進めております。

今回新たに商大グッズとして誕生したのは、「ラーメン」・「エコバック」・「商大君ストラップ」です。ラーメンは、小樽市内の「新日本海物産」と「阿部製麺」が開発したもので、昔風縮れ麺の「小樽高商ラーメン」(塩味)と、中太麺の「小樽商大ラーメン」(醤油味)の2種類があります。新日本海物産の高田社長と阿部製麺の阿部専務は共に本学の卒業生で、「母校の名に恥じない商品を」の意気込みで製作したこだわりの一品です。お求めは運河プラザ、小樽駅内キヨスク、大学生協どうぞ。また、大学生協食堂でも提供していますのでどうぞご賞味下さい。

エコバックと商大君ストラップは、学生、教職員のアイデアをもとに開発したオリジナル商品です。大学生協と駅前プラザ「ゆめぼーと」で販売しております。

商大ラーメン  
「深醤油」2食入り 550円



高商ラーメン  
「久塩味」2食入り 550円



商大ラーメン・高商ラーメン  
各2食入りセット 1,260円



商大くんストラップ 各525円

エコバック 5色  
各500円



### 『小樽商科大学百年史』(仮称)刊行に向けて、話し合いが進行中

2011年(平成23年)の小樽商科大学創立百周年まであと3年となりました。百周年記念事業の一つに『小樽商科大学百年史』(仮称)刊行があります。

内容について話し合いが進んでいるのは、大学全体の歴史について触れる巻(総論)と、いわゆる写真集です。総論では、何人の先生が執筆に携わることになるのかまだ分かりませんが、学生の生活、学園全体の動き、授業や研究、職員の活躍などについて、特定の時期に偏ることなく、かつ具体的に触られることになるでしょう。

他大学の年史と同様、執筆者名記載のより研究色のあるものになると思います。ここで十分に議論できなかったことで、特に興味深いテーマは、別巻で扱われることになるかもしれません。軍教事件や戦後の学生運動、大学昇格運動や、外国語

劇・外国語教育、特色ある教育や研究、あるいはスキーなどがとりあげられるのではないのでしょうか。

写真集も、学術的なものになると思います。大学にとって重要な場面を、写真を用いながら、一定の解説を試みることになります。具体的な資料が読み手にも見えますので、意見の寄せられやすい巻でしょう。出版後も手にした人に教えていただくことがたくさんあると思います。

刊行のために、編纂室は資料の整理をすすめ、学内向けには、検索システムまでつくるつもりです。刊行物とは異なって、分類整理はかなり大変です。まだまだ収集すべき資料はたくさんあります。特に学生関係の資料は、学内では保存期間が5年程度でほとんど廃棄されていますので、これからもその控え等の寄贈に期待しています。

なお、学生新聞『緑丘』(休刊中)は、画像化して編纂室のホームページに掲載します。文字化を卒業生に手伝っていただく方向で、話を進めているところです。詳細は編纂室ホームページをご参照ください。

URL : <http://www.otaru-uc.ac.jp/archives/>

(小樽商科大学百年史編纂室 研究員 平井孝典)



資料整理が進む小樽商科大学百年史編纂室。

## 小樽商科大学・小樽市との間で連携協力協定を締結 小樽市から商大へ職員を派遣

本学はこれまでも、小樽市が設置する審議会をはじめとする各種会議に本学教員を派遣するなど、様々な分野で市と連携、協力を行ってきました。これをもう一步進めて、地域が抱える諸問題を共に考えるために、去る3月27日、連携協力協定が締結され、小樽市は本学ビジネス創造センターに地域連携コーディネーターを派遣する運びとなりました。現在、その任に当たられている富樫誠さんに、お仕事の内容をお聞きました。



3月に小樽市と連携協力協定を締結。  
(左は秋山前学長、右は山田小樽市長)

はじめまして。平成20年4月から、小樽市より本学CBC（ビジネス創造センター）に派遣されている富樫です。

本学CBCの地域連携推進コーディネーターとして、また市の産業港湾部産業振興課職員として、日頃からCBCのビジネス相談などを通じ、主に本学と市との連絡調整業務を行っております。

連絡調整業務とは、いわゆる「ボタンの掛け違い」



小樽市よりCBCに派遣されている富樫誠さん。

をなくすことです。本学と市の現状や認識の違いを正確に把握し、双方の意見・要望を正確に伝達することを心がけています。

また、CBCには本学や市だけでなく、民間企業等からも、非常に多くの情報が寄せられますので、小樽・後志地方の公共利益を考慮し、バランスを保つことも必要と言えるでしょう。

小樽という土地柄もあり、相談の大半は観光関連のものも多く、現在から近未来にかけては、観光を基幹に据えた街づくりが求められると思われま。小樽が観光都市として持続しつつ、その経済効果を地域に還元できる構造にするため、積極的に本学の知見を取り入れていきたいと考えています。

また、わずか3か月ですが、市という組織を客観的に見て、内部の連携や情報共有が不足しているという問題点も見えてきました。

こうしたことを少しずつ解消しながら、コーディネーターへの理解と認知度を高め、「どんな仕事をしているの?」と聞かれないようにすること、これが当面の私の課題と言えるでしょう。

## 学長と記者との懇談会を開催

5月28日、駅前プラザ（ゆめぼーと）において、小樽市記者クラブ登録の報道機関の記者をお招きし、学長と記者との懇談会を開催しました。この懇談会



「ゆめぼーと」で行われた記者との懇談会。

は、昨年3月以来2度目のもので、本学の現状や将来への課題を記者の方にお知らせすると同時に、記者の方からも本学への意見や要望などを伺うことにより、本学の更なる発展の一助になることを期待して開催しているものです。

懇談会の中で、記者の方からは、本学の研究者がどのような研究を行っているかをわかりやすくしてほしいなどの要望が出され、また、創立100周年事業や地域再生システム論をはじめとする他大学との連携、また最近の就職の状況などについても質問をいただきました。今後これを一つの機会として、少しでも地域の方に大学が身近な存在となればと考えているところです。



シリーズ  
先生紹介  
第16回

## 社会生活に役立つ医学知識 をわかりやすく教えたい

今回はこの4月に保健管理センター所長に赴任した菅原先生にお話をお伺いしました。医師でもある先生の、前職でのご活躍や、今後の抱負、本学の印象などをお聞きしました。

に進学して臨床と研究を行い、博士論文を執筆しました。大学院を修了後、北大医学部産婦人科の助手に採用され、外来と病棟を担当しました。そして、1994年から2年半、アメリカのペンシルバニア大学生殖医学研究所に留学しました。帰国後、北大医学部産婦人科で1年ほど臨床を行い、1998年に生化学教室の助手に就任して基礎的な研究を10年間行いました。

**小樽にはどのような印象をおもちですか。**

**菅原：**私は東京（板橋区）の出身です。大学進学で北海道に来ました。現在は札幌に自宅があり、家族といっしょに住んでいます。小樽は観光地で有名であることはもちろん知っていました。しかし、小樽に通勤するようになって、かまぼこにもいろいろな種類があるように小樽には新鮮な魚介類が豊富にあり、小樽は海に面した港町であることを実感しました。

**保健管理センター長はどのような仕事をされているのですか。**

**菅原：**赴任してまだ3カ月ですが、おもな仕事は学生と教職員の健康管理です。学生に対しては、高校時代に受験勉強で体調に気をつけていなかった学生がいますので、健康診断でスクリーニングをして重大な病気をチェックし、それにかかっている学生を発見して適切な病院・医師を紹介しています。また、麻疹やインフルエンザといった感染症が突発的に起こりますが、感染者を最小限に抑え、合併症を発病しないように注意し、啓蒙活動を行うとともに、医学的見地から休校時期・期間など必要な措置を学長・副学長にアドバイスしています。教職員に対しては、秋に検診を行います。最近ではメタボリック症候群が言われていますので、それも考慮に入れた検診に取り組んでみたいと思います。

**これまでどのような研究をされてきたのでしょうか。**

**菅原：**北大では、おもにステロイドホルモン（女性はエストロゲン、男性はアンドロゲン）の研究をしてきました。具体的には、病気で言いますと、先天性副腎過形成といった病気の原因の遺伝子を研究してきました。

本学に赴任が決まった時、本学で研究を続けられるように、3号館に研究室を用意していただけるお話が現学長の山本先生からありました。夏頃に準備が整う予定ですので、今まで行ってきた研究を続けて行きたいと思います。

**本学教員・保健管理センター長としての抱負をお聞かせください。**

**菅原：**今年度後期に夜間主コースで「予防の医学」を担当します。授業では、病気にならないための知識を学生に教えていく予定です。また、最近では、難しい用語が普通に語られるようになっていきます。たとえば、インフォームド・コンセントがそうです。社会に出た時に医療・医学知識は必要ですので、一般的な病気の話も含め常識的・医学的なこともわかりやすく教えていきたいと思っています。

保健管理センター長としては、学生が病気にならないように予防に心がけ、無理をしないで健康に気をつけることに力を入れたいと思います。また、教職員は年齢が比較的高いので学生とは違った病気が増えてくるでしょう。その時に予防はもちろん、日々不安に思っていることに対して相談できればと思います。

**最後に本学学生へのメッセージをお願いします。**

**菅原：**本学の学生は明るくて元気という印象をもっています。毎日、勉強やクラブ活動や試験で忙しいと思いますが、疲れた時には無理をしないで休むことが非常に大事です。疲れるとストレスがたまり、ストレスがたまる体調が悪くなりますし、精神的にも無理がいつてしまいます。体を休め、決して無理をしないように心がけてください。

### 菅原 照夫 教授

保健管理センター所長

1984年 北海道大学医学部卒業  
1992年 北海道大学大学院医学研究科外科系修了

1984年 北海道大学医学部附属病院 医員  
1985年 札幌厚生病院産婦人科  
1986年 砂川市立病院産婦人科  
1987年 釧路赤十字病院産婦人科  
1993年 北海道大学医学部産婦人科講座助手  
1994年 ペンシルバニア大学医学部 研究員  
1996年 北海道大学医学部附属病院 医員  
1998年 北海道大学医学部分子生化学講座 助手  
2007年 北海道大学大学院医学研究科先端医学講座 助教  
2008年 小樽商科大学保健管理センター教授・所長

**先生は医師でいらっしゃいます。どのような動機で医師を志望されたのでしょうか。**

**菅原：**私は小さい頃によく病気やけがをしていましたので、小児科の先生にあこがれていました。高校の進路指導で理科系に決め、医学部を志望しました。

私が北大医学部に在学していた頃は最終学年で専門を決めました。専門は、診断をおもに行う内科系と、治療をおもに行う外科系に大きく分かれます。私は小児外科または新生児を扱う産婦人科を考えました。恩師の及川先生にも相談しまして、産婦人科医は将来的に不足し、また産婦人科は診断と治療が一体になっていて研究するにも新たな展開があるとのアドバイスをいただきましたので、産婦人科に進みました。

**本学に赴任されるまでのご経歴についてお聞かせください。**

**菅原：**1984年に北大医学部を卒業後、産婦人科教室に入局し、1年目は附属病院で、2年目からは1年ごとに札幌・砂川・釧路の一般病院で4年間研修を行いました。その後、北大大学院

# INFORMATION

## オープンキャンパスのご案内

高校生の皆さんに大学構内を実際に見てもらい、模擬講義やキャンパスツアーを体験していただくために下記の日程でオープンキャンパスを開催します。学生生活や海外留学の説明会や各種相談コーナーを用意する他、先輩達の生の声を聞くこともできます。

また、学食体験もできます。この機会にぜひ参加してみてください。

日時：平成20年8月5日(火) 10:00～16:00

会場：小樽商科大学

問い合わせ先：小樽商科大学入試課 0134-27-5254・5253

URL：http://www.otaru-uc.ac.jp/hnyu1/oc2009/opc1.htm

## 一日教授会を開催します

商大が取り組んでいる教育・研究や地域連携・産学連携事業等にご理解をいただくとともに、小樽市民の皆様よりご意見をいただいて大学の運営に活かすことを目的として、毎年「一日教授会」を開催しております。今年は、以下のとおり予定しておりますので是非ご参加下さい。

日時：平成20年10月16日(木) 18:30

場所：小樽グランドホテル

## よさこいチーム「翔楽舞」が 敢闘賞・新人賞を受賞



商大生のよさこいチーム「翔楽舞」が6月に行われたよさこいソーラン祭りに初出場し、元気に演舞を披露しました。企画から振り付け、資金集めまですべてを学生自らがやり、見事敢闘賞と新人賞のダブル受賞を果たしました。

## 大学祭が盛大に行われました

第56回  
緑丘祭  
H20.6.27 29



第17回  
緑宵祭  
H20.6.26 28

## 国立大学法人小樽商科大学の 役職員の給与水準の公表について

国立大学法人の役員報酬及び職員の給与水準については、毎年度公表することとなり、本学においても平成19年度の「国立大学法人小樽商科大学の役職員の給与水準」をホームページで公表しております。

http://www.otaru-uc.ac.jp/hojin/kyuyosuijyun/kyuyosuijyun2007.pdf

を入力していただくか、「小樽商科大学 給与水準」で検索していただければ閲覧することができます。

【問い合わせ先】小樽商科大学総務課人事係 (0134-27-5208)

## 「小樽緑丘」酒米の田植えを行いました

農業の実態にふれるとともに、商大グッズを身近に感じてもらうことを目的に、毎年、学生有志に清酒「小樽緑丘」の酒米の田植えを体験してもらっています。今年も6月4日(水)仁木町の紅果園で学生ら15名が参加して行われました。



ほとんどの学生が、田植えは初めての体験で、植え方を教わりながら準備していただいた苗を見よう見まねで植えていきました。

今年は秋山前学長ご夫妻も参加され、終了後はおにぎりや焼き肉をいただきながら、意見交換を行いました。

## 商大ビアパーティを開催します

学生のジャズ研究会の生演奏やよさこいチームの演舞を楽しみながらおいしいビールを飲みませんか。昨年好評だった「商大ビアパーティ」を今年も下記のとおり開催します。チケットは下記にて販売中。また、当日券もありますので、夏の一夜をご一緒にどうぞ。



日時：平成20年8月6日(水) 17:30～20:00

場所：大学会館前広場(雨天の場合は大学会館内)

チケット販売場所：総務課総務係、大学生協、駅前プラザゆめぼーと

【問い合わせ先】小樽商科大学総務課総務係 (0134-27-5206)

学生や先生の活動、イベント、学内の風景等を  
ブログで毎日好評更新中!



http://d.hatena.ne.jp/shoudai-kun/

## 編集後記

山本新学長は3年後の創立100周年には、「多くの人に散歩に来てもらえるような、花でいっぱいのキャンパスにしたい」と仰っていました。また、「大学の花を決めるのもいいね」とも。商大のシンボルにはどんな花がいいのでしょうか。真っ直ぐに伸びるヒマワリ? 「品格」を意味するコデマリ? どなたか商大にピッタリの花をご存知ありませんか。(HO)

## 編集スタッフ

尾形弘人、中浜 隆、今本啓介、西永 亮

## 【ご意見・ご要望のお願い】

広報委員会では、読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より良い広報誌を作成する所存です。取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構ですから下記にお寄せください。

E-mail: kouhou@office.otaru-uc.ac.jp FAX: 0134-27-5213

URL http://www.otaru-uc.ac.jp